

ニュース解説

ニュースを追う

パーソナルサプリーの動向と課題

薬機法への留意や  
コンタミなど製造面が課題に

「昨今、パーソナル化サプリーやオーダーメイドサプリーの販売を進める企業が増えている。本紙では、個人に最適な栄養を導く「プレジジョン栄養学」について、最前線で研究を行う専門家ヘインタビュウを行ってきた。今回は、マーケットに焦点を当て、最近の動向や個別化栄養の社会実装に向けた課題と今後の可能性について専門家の意見を交えながら考える。(編集部・村田)

明治、腸内タイプごとに  
おすすめ商品を提供

多様化が進む昨今、あらゆる商品やサービスにおいて「個別化」や「細分化」が重要なテーマとなっている。

健康食品業界においても、ここ数年でパーソナル化サプリーメントやオーダーメイドサプリーメントといったサービスが堅調に増えている。学术界においても、個人の遺伝子や腸内細菌叢、代謝機能などさまざまな因子に基づいて個別に最適な栄養を提案する「プレジジョン栄養学」が注目を集め、こうした個人差を踏まえた研究が進むことで、サプリーメントや健康食品のパーソナル化に一層期待感が高まっている。

これまで、パーソナルサプリーの販売に用いられてきた最も多い手法としては、実店舗やオンラインにて食生活や生活習慣についてのカウンセリングやアンケートなどを実



施し、不足している栄養素を分析、個人に適したサプリーを処方するというものだ。

大手ブランドメーカー・ファンケルの「パーソナルワン」は、医師監修のもとで開発された尿検査と食習慣や生活習慣の分析ロジックを採用し、その結果から最適なサプリーをワンパックにして提供するサービスを実施。

ドラッグストア大手のマツキヨココカラ&カンパニーは一部店舗で「サプリーメントバー」を運営。管理栄養士が顧客の生活と生活習慣を詳細にカウンセリングし、個々の顧客に最適なサプリーを分

包し提供する。シクロケムのグループ会社であるコサナでは、プロテインをベースに、顧客に必要な栄養素を約50種類から厳選して個別に配合し提供するサービスを展開するなど、パーソナル化サプリーのあり方も多様化している。

最近では、独自の分析システムやAIを活用することで、より精度の高い提案に取り組み企業も増えている。

エクオールサプリー「エクスエル」を展開する大塚製薬では、エクオール検査キット「ソイチエック」を提供。日本人女性の約半分は大豆イソフラボンエクオールに変換する腸内細菌を持たないとされる。「ソイチエック」ではエクオールを作れるかどうかを知ることができ。明治は12月12日から、メタジェン(山形県)監修による腸内タイプ別パーソナルケア「インナーガードン」をECにて販売する。腸内

細菌の代表的な菌属の量とバランスを測定し、腸内細菌のタイプ分けを行う。腸内タイプごとに おすすめ素材を配合した商品、全5品のラインアップの中から選定し提供するしくみだ。

ドリコス(東京都)は、スポーツジム向けにオーダーメイドサプリーメント「サバー」を販売している。会員のトレーニング目標や体組成情報などを自動で分析し、その場で1方以上の配合パターンから最適なサプリーを提供する。

個別化がサプリーのより有効かつ安全な利用にシクロケムの寺尾啓二社長は、「この事業について抗加齢医学会で講演を行い、医師の方から多くの反響をいただきました。未病領域においても、個別化を取り入れることに

賛同の声をいただきました。一方で、薬機法などによって直接的な提案に限界があることや、オーダーを受けてその都度調合を行うため、今後事業を拡大する際にはコンタミなど製造面の課題もあります」と話す。また遺伝子検査サービスを行うある企業は、「あまり競合他社で同様のサービスが展開されていないので、自分の体質に関する遺伝情報を知れるということ、反響は良かった。一方でやはり薬機法の観点で課題」などと話す。健康食品の広告表現に詳しい山本浩二氏によると「カウンセリングでは、『外食が多い』『野菜が苦手』といった段階の質問であれば問題ないものの、『血圧が高い』『身体の節々が痛む』などといった症状に関する質問からサプリーを提供する行為は薬機法に違反となるため留意しなければならない」と指摘



健康食品の開発に詳しいヘルスフードコンサルタントの山路明俊氏は「基本的にはプレジジョン栄養学の研究をベースにAIを利用して顧客に適切な栄養素を導き出す方法になると思います。今後はレスポンス・ノンレスポンス(効く人と効かない人の概念がパーソナルサプリーにもっと活かせるでしょう。また分析の専門企業などビジネスパートナーとして事業を進めることは個別化栄養の重要性についての消費者への啓発にも繋がると話す。またプレジジョン栄養学の第一人者である女子栄養大学の加藤久典氏は、「健康食品における効果の個人差の予測は、より有効かつ安全な利用につながる」と、個別化栄養のメリットを語る。

消費者への認知拡大や事業者側の課題が多くあるなか、個別化栄養の有効性は研究によって明らかになりつつある。薬機法との関係上、リスクのあるビジネスではあるものの、個別の視点に立った提案はますます重要視されていくだろう。

健康食品の開発に詳しいヘルスフードコンサルタントの山路明俊氏は「基本的にはプレジジョン栄養学の研究をベースにAIを利用して顧客に適切な栄養素を導き出す方法になると思います。今後はレスポンス・ノンレスポンス(効く人と効かない人の概念がパーソナルサプリーにもっと活かせるでしょう。また分析の専門企業などビジネスパートナーとして事業を進めることは個別化栄養の重要性についての消費者への啓発にも繋がると話す。またプレジジョン栄養学の第一人者である女子栄養大学の加藤久典氏は、「健康食品における効果の個人差の予測は、より有効かつ安全な利用につながる」と、個別化栄養のメリットを語る。

Polaris社 微細藻類DHA/EPA 総輸入代理店
OmegaVie® Algae (微細藻類DHA/EPA) を販売開始
・DHA含有量は最大85%、EPAは60%
(EPA/DHA含有量：100/500、400/200、360/240、200/500など)
・フランス製造品
・特許製法で製造(オイルの酸化や独特な臭いを軽減)
・日本国内特許申請中
(DHA60%以上、トリグリセリド70%以下の範囲で独占的に販売)
・機能性表示申請中
MAYPRO
〒113-0034 東京都文京区湯島3-37-4 HF湯島ビルディング3F
TEL: 03-3837-2688 FAX: 03-3837-2775
URL: http://www.maypro.co.jp/
E-mail: info@maypro.co.jp